BOLETIM INFORMATIVO INTERNO (GRATUITO) **A・C・A IWATE KENJINKAI DO BRASIL**

ブラジル岩手県人会ニュース

127号 2005年4月発行

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - LIBERDADE - SÃO PAULO - SP - BRASIL CEP 01506-020
TEL: (11) 3207-2383 • FAX: (11) 3277-0403 • E-Mail: iwate@iwate.org.br • www.iwate.org.br

始まった 愛知万博

愛・地球博 EXPO 2005 AICHI JAPAN

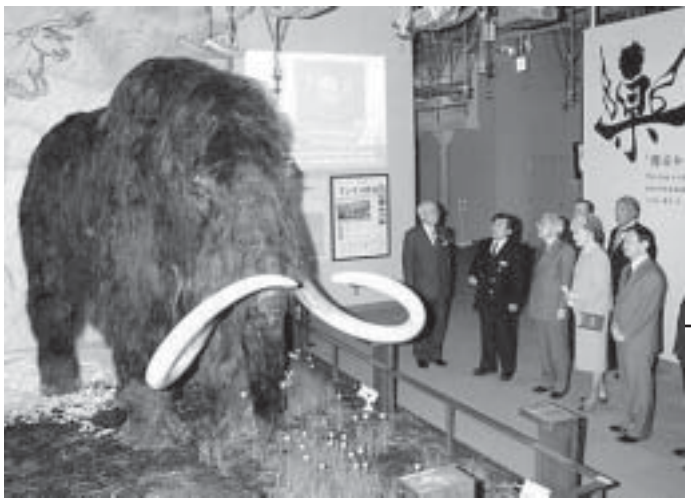
21世紀初の「愛・地球博」が、愛知県の万博会場で3月25日開幕した。同博は「自然の叡智をテーマに、海外から121ケ国が参加」185日間にわたって行われ、期間中1500万人以上の参観者を見込んでいる。

初日は、雪が舞う中4万3千人が入場、シベリアで発見された1万8千年前のものとみられる「冷凍マンモス」や「ロボット館」が人気を集めたようである。

会場マップ

開場を待つ参観者

式典で挨拶を述べる天皇陛下



マンモスを見る天皇皇后両陛下と皇太子殿下

トランペットを奏でるロボット

お知らせ

歓迎会 「久慈浩介氏」

4月14日（木）午前7時JAL便にて「高級地酒・南部美人」蔵元（二戸市）の製造部長「久慈浩介氏」（賛助会員）が来伯されます。久慈氏は15日夕まで滞在。市場視察や、会員皆さんとの交流がメインです。

14日午後7時より歓迎会を行いますが、行事お知らせで詳しくご案内しております。

第28回 高齢者 懇親誕生会

4月17日（日）午前11時より「高齢者懇親会誕生会が行われます。

当日は、太鼓教室の皆さん（少年・青年）が1年間練習の成果を披露します。

☆ 毎度の事ですが「皆さん自慢料理の持ち寄り」をお願いします。他は県人会で用意。

東北ブロック運動会

5月15日（日）午前9時より、東北ブロックによる「運動会」がオザスコ文協グランド（ACEMBO）Rua Acembo 100 OSASCO で開催されます。

第16回 いわて餅まつり

6月26日（日）午前11時より「いわて餅まつり」が行われます。「白餅」と「食べ放題」の予約・前売りを受け付けています。

☆ 白餅　7レアル
☆ 食べ放題　9レアル

第8回 日本まつり

7月15、16と17日県連主催「第8回日本まつり（Festival do Japao)」が、州農務局展示場（イミグランテ街道沿、メトロ・ジャバクアラ駅近く）で行われます。

県人会の動き（2005年3月）

2日　盛岡の吉田重雄氏より（賛助会員）一戸和氏夫人エイコさんは28日逝去されたとの電話頂く。
☆　高橋はる子さん土地売却に関する相談、県医療局管理課へFAX。
3日　留学希望の町田のりこさん（祖母が岩手）来館。印刷物などのデザインを学びたいと。
4日　県庁へ研修先の斡旋をお願いする。
☆　会報126号の編集作業。☆ 午前中藤村副会長事務代行。
5日　パソコン用モニター購入。
7日　金谷花恵さん（日本ブラジル交流協会研修生）今夜帰国と挨拶に来館。
☆　県国際課菊地氏より町田さんの研修先についてFAX受信。
☆　「南部美人」久慈浩介氏よりサンパウロ訪問のメールあり。
9日　会報126号下版。
10日　安倍儀郎氏夫人ユキ様本日午前2時逝去のお知らせ。役員多数でお別れにベロリオへ。
☆　ニッケイ印刷で会報ゲラ刷り校正。
11日　県国際交流協会高橋量平氏より賛助会員について受信。（新たに佐藤武氏ご入会あり）
12日　役員会開催。議題は行事の確認、担当者選出。
出席者、亀ケ沢、千田、多田、藤村、藤沢、峯、昆野、阿部、及川、高橋（信）、高橋万右衛門、高橋（義）、塚田、袰岩、石井、畑、千田まさ、藤村はるみの諸氏。
☆　県海外移住家族会（細越太一会長）より3月末をもって解散の通知。近く残余財産の一部を南米各県人会へ寄付とFAX。県国際交流協会よりも連絡。
14日　県国際交流協会、海外移住家族会へ礼状。
17日　県人会ニュース126号国内外へ400通発送。藤村副会長、山道洋子さん手伝う。
19日　高橋洋介氏（賛助会員）より新住所受信。
盛岡市東仙北 1-3-9 〒020-0862
TEL FAX 019-625-0005 mail-takayou@ictnet.ne.jp
☆　国際課へ留研生OB実態調査の件について発信。
21日　千田会長、藤村副会長金宝丸訪問。
22日　国際課木村氏より人事異動について受信。
☆　会長8日と本日県連会議に出席。
23日　JICA派遣ボランテイア「和美智子さん」帰国挨拶に来館。
☆　「広報 かねがさき」受領。
24日　県国際課へ人事異動された方々に礼状発信。
25日　多田副会長定期総会記録をまとめる。
26日　新婦人部集会、婦人12名、女子青年数名。
28日　県交流協会高橋量平氏（事務次長）は、県庁監査委員事務局に異動の挨拶来信。
31日　宮城県人会で行われた県連定期総会に出席。

賛助会員紹介（10）

第40号　八重樫　協二 様　(84歳)
Kyoji Yaegashi
岩泉町在、町会議員、県会議員、岩泉町町長4期歴任。昨年回想録「風にむかって立つ」を出版。平成12年勲三等随瑞宝章授章。
会員（A）10年分納入。

第41号　佐藤　武 様　(99歳)
Takeshi Sato
明治39年(1906)10月14日生、胆沢郡金ヶ崎町在、ブラジル訪問は昭和46年以来5回。ボツポランガに親族山田ゆき子さん他。昨年「金ヶ崎町重要建物群保存地区」を出版（会報125号に掲載）
会員（A）5年分納入。

会費納入者名（3月）

田口信二　田口亮毅　田口精基　田口晋喜
田口晃記　田口郁子　及川信子　佐々木憲輔
佐々木憲次　佐々木和子　菊地満　苫米地静子
平尾宏子　矢島ミドリ　千葉直義　切田諒美
和美智子　山田山口エツコ　玉木シモネ
阿部安忠　佐々木寛一　佐々木進Luiz Jose
関明子　安倍儀郎　峯きよこソフィア
寺田雪江　（以上26名　累計103名）

寄付　寄贈

☆ 佐々木　憲輔 様　お茶菓子
☆　清水　宮路 様　図書　一冊
松竹大船撮影所前松尾食堂
☆　高橋　佑幸 様　100レアル
図書5冊　各駅停車　岩手県、岩手宰相論、岩手の食事、日本改造計画（岩手県出身の著名政治家小沢一郎著）、岩手町史、
☆　安倍　儀郎 様　香典返し　県人会へ300
婦人部へ200、
青年部へ200レアル、

逝　去

安倍ユキさん（80歳・安倍儀郎氏元県人会事務長夫人）は、長い間闘病中でしたが、ポルトゲーザ病院にて3月10日午前2時逝去されました。故人のご冥福を心よりご祈念申し上げます。
尚、49日法要は、4月24日午後2時、サンジョアキン街285番地、曹洞禅宗仏心寺でとり行われます。

文字脱落ミス ＝ 会報3月号「会費について」で、もし亡くなられた場合にはご「面倒でも県人会へご一報下さい」の「」部分を追加してお読み下さい。

アマゾン及び北伯への旅

フーチャン

ポルト・ベーリョよりマナウス　（一千二百キロ）

二時間遅れの五十時間でロンドニア州の州都ポルトベリョ市に午後六時到着、バスを降りたら直ちに我々の人相風体を見て。

『マナウス行きの船に乗るか』
『いつ出るんだい』
『午後六時出港だ今日乗らないと四日後だ』
『もう六時だぜ』
『電話して出発を押さえるから』
『ハンモックじゃ駄目だぜ』

電話して
『船室が一つだけ空いてるそうだ』
『何番だ』
『5番です』（筆者は5となる数字に拘る）
『それで決まりだ』

と言う訳でタクシーを港まで飛ばし乗船したが、一向に船が出ない。

船名はＪ・Ｃ（ジェジュス・クリスト）号、これは名前負けでトラブルが発生する予感がする、後述するが人身事故こそ発生はしなかったが受難の船旅であった。

先ずは出発しなかったのは水先案内人が船主と喧嘩をし船を勝手に降りてしまったからで、やっと出発したが若造が舵輪を握っている。事情を知らなかったので『無免許ではお巡りさんに捕まるぞ』などと冷やかした、実はこのマデイラ河で先月船が転覆して十四名水死したのである。 船主の息子と思しき若者が隣の船室にいる、沈んだら最初に知らせてくれと頼んで置いた、釣り人用のポケットの多いチョッキを着用し、財布とパスポートを入れて備えあれば憂い無しで、事故があったら泳ぐ準備をしてたが無用であった。

船の梶輪を握る一人に兄が注目してるので聞いた所、綾小路きみまろ（漫談家）に良く似て居ると言うのだ、そこで写真を撮る。

マデイラ河は航行中程よい気温と湿気で、既に記憶には無い

河底が浅くなったと思われる。この船客はハンモックが最良と現地人

誰もこれ位のことで騒ぎ立てる人間はいない、その内腕に自信の有るのが釣りを始めた。 昼過ぎに焼けたから食べに来てくれとのご招待に預かり、土産にジョニ黒を一本持参に及び、仲間入りし久しぶりにアマゾンの魚を味わった。

船中の厨房からは魚料理は出てくる筈の無いのは先回の航海で認識させられているから期待しない、食べれる時に食べて置かねばと遠慮はしない。

野菜など薬にしたい程も無い、緑は目には余るほど入るが口には入らない、厨房のオバさんに我々は貴女方と違って目からビタミンを摂取する能力が無いとからかう。

船の下流側で泳いだりして楽しんだ。通りがかりの船がロープで曳航しようとしたら舳先が折れてしまった。 最後に体重の有りそうな乗客五十人程を小船で岸に連れて行き喫水線が上がった所で離礁出来たのは座礁してから一五時間後であった。

途中一昨年数多くのガリンペイロ（砂金採取業者）がいたが今回は二艘しか見えなかった、例の水銀汚染問題で禁止したそうだ、我々が見たのは潜りで潜る（川底の砂を人間が潜って吸い口を操作する）業者であった。

航行中行き交う船を見るのも一興である、貨客船は滅多に会わないが、大型の平底の荷船（BARGEバージ＝ポ語ではバケツの意）には良くお目に掛かった、押し方専門の船二艘で押すのであるが、川底の比較的浅いこの川では、今後増加すると思われる。上流に運ぶ液体燃料輸送船、大豆輸送船（トラック四百台分の大豆が積める）、おそらくは一九九七年に完成したイタコチアラの大豆積み出し港まで運ぶのであろう、この輸送システムは米国のミシシッピー川のを応用したそうである。

更に進んでいるのは、ソナーで川底の深さを調査し詳細な川底地図を作製し、人工衛星で位置を知るシステムを使って安全に一千百五十キロを航行するシステムを作り上げたそうだ、何の事は無いナビゲーションの事だ。日本ではこれを自動車に利用してカーナビと称して初めての場所にでも簡単に到着出来る。

ここで六万トンの穀物専用船にコンピュータ制御で二日間で積み込みが出来るそうだ、

記録にはイタコチアラ積出港が一九九七年四月十二日に完成し、カルドーゾ大統領臨席の下に開港祝いをし、四月十七日に日本行きの第一船が出港したとある。

この下流のサンタレン市には一昨年には無かった国際穀物メジャーの大手カーギル社の大豆積み出し設備が出来ていた、大豆の輸出が米国を抜いて世界一に成ったのもその理由の一端が理解出来た、又セラード開発競争の勝利者が誰で有ったのかも。

先年米国が自国の大豆生産者に資金援助をしているのが他の農業生産国からアンフェアだと指摘された。そもそもブラジルが真剣に大豆生産に乗り出したのは、田中角栄氏が首相の頃米国のニクソン大統領は自国大豆の不作を理由に輸出を禁止したのが契機となっている、米国やヨーロパは大豆は単なる飼料

であるが、日本では主要食品の一つで豆腐の値段が日本では二倍にも跳ね上がった、味噌醤油の業界もパニックに陥った。

それにエルニーニョ現象の為ペルーのアンチョビ（片口イワシ）が不漁続きで飼料の国際相場の高騰を煽った事も事情がより深刻にしたのも事実である。

昨年も大豆が多収穫であったにも拘わらず価格が高くなったのはエルニーニョが原因である。筆者は金儲けに対する興味は無いが、若し穀物相場に興味を持たれている方が居られたら、大豆相場とエルニーニョの関連に留意されたい。

わが家では毎年大豆を自家用にサンパウロの穀物街で購入するが、昨年は五十キロで五〇Ｒｓだったのが、今年は八〇Ｒｓも払わされた。

かくて食料輸入国である日本、輸出可能国のブラジル両首脳、田中首相とガイゼル大統領の合意でセラード開発がスタートし、今日の繁栄を見る訳である（然し日系人では金融面での行き詰まりで破産した犠牲者がかなり出たことも忘れてはならない）。

ここで特筆しなければ成らないのは、コチア産業組合が肝入りで造成した、バイア州のバヘイラス市の植民地（正しくはミモーソ地区）では多くいたコチア青年の中で只一家族だけ大豆生産に従事しているのが岩手県出身の菅原正芳氏一家だけである。

詳しい話をしたことは無いが、恐らく、余り借金はせずに堅実な営農方針を貫かれたに違いない、実は筆者も第二回目の視察団の一人として訪問したものであるが、市場との距離、金融面に対する不安から参加を取りやめ、日本の方が時間的に近いぞと考えて、日本に行ったが、皮肉な事に借金が嵩んだ組合員は日本に行って働いて返せと言われたそうだ。

アマゾン川ののどかな風景－教会と船

面白い事に現地の人々に大豆生産に日本が系わった事を話しても誰も知らない、それどころかアルミ生産、パルプ生産にも日本が大いに系った事も知らない。

推理を働かせればあるいは関係者も為政者も我々の力で成し遂げたんだと、宣伝して選挙を有利に進めたのではと、これは

スペクタクルな旅特集・つづく

墓参　生前葬

岩手群岩手町出身

高　橋　佑　幸

この5月72歳になる私は、年齢的にも体力的にも空の長旅に耐えて祖国を訪問できるのは、これが最後の機会になるであろうと、日本の最も寒い時期である2月いっぱい、郷里岩手の両親の墓参りと、東京・名古屋の友人たちを訪ねてきました。

岩手町の沼福寺に眠る両親の墓は、まだ両親が生きているうちから、曹洞宗大本山（福井の永平寺）管長から戒名を頂いて墓石に刻んであった墓を、子供の頃から拝んでいたものでした。

沼福寺は祖父が寄進して建てられた寺だったとのことで、高橋家の墓は寺の正面横に広い面積で柵取られた立派な墓でしたが、柵石は崩れ落ちたのか、撤去されたのか、無くなっていて、回りには最近の町の有力者やお金持ちの檀家が建てたらしいもっと立派な墓が出来ており、我が家の没落の歴史を目の当たりにした感じでした。

墓前の通路は雪除けがしてありましたが、墓石はかろうじて頭が見える程まで雪に被われていて、墓前に近ずく事が出来ませんでした。通路から蝋燭と線香の火をつけて、持って行った花束と共に雪に差し込んで「もう直ぐ私もそちらにイギヤンスガラマッチオイデクダンセ」と合掌してきました。

私は5人（姉3人男2人）兄弟の末っ子ですが、早くに両親を失い僅か6歳しか違わない姉の嫁ぎ先に連れ子のようについていって世話になったのですが、その姉も数年前に癌で亡くなりそのお墓も拝んできました。懐かしいその義兄の家に親戚たちに集まって貰い「これが祖国の土を踏む最後になるので、

ご香奠はいらないけど、お通夜をやって頂きたい」と宣言して、温かい鍋物を囲んで賑やかな「お通夜」を催して貰ってきました。（中略）

東京・名古屋・大阪には日本政財界の錚々たる人物50人以上を友人にもつ人脈に恵まれており、ひと月の滞在中ビッシリと日程の組まれた「生前葬」の会食（御馳走）攻めにあってきました。「生前葬」と言えば（友人たち曰く）「今それって流行ってるんだよ」と笑っていました。もしまた来る機会があったら3周忌だ5周忌だと言えばいいんだよと、励まされているのか大笑いの賑やかなお通夜の連続でした。（中略）

寒い国から暑い国へ帰ってきて、身体中の節々が痛くて我慢出来ない苦しみが2週間以上も続きました。指圧師に通って荒治療をして貰いやっと平常に戻りました。このことも自分の衰えを思い知らされるとともに、やはり今回が「最後の訪日」となったことが正解だったなと実感しているところです。

「完」2005年3月21日記

お詫び 紙面の都合で中略させて頂きました。

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL
TELEFONE 55 (11) 3207-2383 – FAX 55 (11) 3277-0403
www.iwate.org.br – e-mail: iwate@iwate.org.br